



「さんがつの さんさんさびしき 陽をあつめ 卒業してゆく 生徒の背中」 俵万智



(3月の燦々と降り注ぐ陽の光と寂しい気持ちを背中に受けながら卒業していく生徒の背中を見送るよ)

3月になりました。これから、学校では卒業式、終業式、春休みがあります。そして桜も開花しはじめます。子どもたちには、しっかり3年度のまとめをして、新しい年に向けて準備をさせましょう。

## 子どもの頃の体験活動はその後の成長に良い影響がある

「青少年育成センターだより第22号」で“子どもには手伝いをさせましょう”と提案しています。(これまでの「青少年育成センターだより」は防府市のホームページに載せています。読んでみてください) その中で、手伝いや体験活動が多い子どもほど「自己肯定が高い」傾向があると報告をしました。

ここで、もう一度「体験活動」と子どもとの関係について考えてみましょう。

今回、文部科学省の調査の結果が示されましたので、紹介します。

- 1 小学生の頃に体験活動(自然体験、社会体験、文化的体験)や読書、お手伝いを多くしていた子どもは、その後、高校生の時に**自尊感情**(自分に対しての肯定感、自分に満足しているなど)や**外向性**(自分のことを活発だと思ふ)、**精神的な回復力**(新しいことに興味を持つ、自分の感情を調整する、将来に対して前向きなど)といった項目の得点が高くなる傾向が見られた。
- 2 小学生の頃に異年齢(年上・年下)の人とよく遊んだり、自然の場所や空き地・路地などでよく遊んだりした経験のある高校生も、上記と同様の傾向が見られた。
- 3 経験した内容(体験活動や読書、遊び、お手伝い)によって影響が見られる意識や時期が異なることから、1つの経験だけでなく、多様な経験をすることが必要であることもわかった。
- 4 小学校の頃に体験活動などをよくしていると、家庭の環境(家族構成、収入、親のしつけ、住環境等)にかかわらず、高校生のときに自尊感情や外向性、精神的な回復力といった項目の得点が高くなる傾向が見られた。

これまで直感的に捉えられてきた「体験活動は、子どもの成長にとって大切な要素だ」という感覚を、確かな分析方法によって裏づけられたと考えられる。

「21世紀出生児縦断調査(平成13年出生児)」の調査データから

この報告書から、子どもに体験活動をさせることがいかに大切かを理解いただけたことでしょう。

ここに書かれている「**自尊感情**」や「**外向性**」、「**精神的な回復力**」は、これから子どもたちが社会の荒波を生きていく上でとても大切な資質です。これらを獲得できる体験する機会をたくさん設けてやることは、私たち大人の責任なのです。

もうすぐ春休みが始まります。お父さん、お母さん、お疲れでしょうが短時間でもいいのです。子どもと一緒にいろいろな体験をしましょう。

(文責=青少年育成センター指導員 藤村)